

第2期

会津若松市地域福祉計画

社会福祉法人会津若松市社会福祉協議会
地域福祉活動計画

令和5年度評価検証シート

令和6年12月

会津若松市
会津若松市社会福祉協議会

目 次

1	計画体系と主な取組	1
2	基本施策	2
	基本目標1 みんなが活躍できる地域づくり	2
	基本施策1-1 地域福祉の理解促進と福祉の心の育成	2
	基本施策1-2 地域福祉活動の担い手の育成	3
	基本施策1-3 誰もが活躍できる場の創出	5
	基本目標2 みんなで支え合う地域づくり	8
	基本施策2-1 地域交流の推進	8
	基本施策2-2 支え合い活動の推進	10
	基本施策2-3 住民と関係機関の連携	12
	基本目標3 みんなが安心して暮らせる地域づくり	14
	基本施策3-1 くらしを支える環境の整備	14
	基本施策3-2 情報提供と相談体制の整備	16
	基本施策3-3 医療・福祉サービスの充実	18
3	重点的に取り組む施策	21
	重点的な取組1 住民参画による地域づくり	21
	重点的な取組2 相談・支援体制の充実した地域づくり	22
	重点的な取組3 常時・非常時の切れ目のない支え合いの地域づくり	22
4	地域における重点的な取組	24
5	成年後見制度利用促進基本計画	30
6	全体評価	31
7	会津若松市地域福祉計画等推進会議委員名簿	32

1 計画体系と主な取組

基本理念

誰もが安心して暮らせるよう地域で支え合うあいづわかまつ

基本目標1 みんなが活躍できる地域づくりの主な取組

- ・広報紙「つながる」の全戸配付による先進的な地域福祉活動の広報（市）
- ・地域ケア会議等における地域活動の担い手の確保等について検討（市）
- ・インターネット利用によるボランティアの確保（社協）

基本目標2 みんなが支え合う地域づくりの主な取組

- ・「つながりづくりポイント」による日常的つながりの構築促進（市）
- ・ICT利用によるコミュニケーションに向けたスマホ教室等の開催（市）
- ・講師派遣や助成金交付などによる地域サロン等の活動支援（市・社協）

基本目標3 みんなが安心して暮らせる地域づくり

- ・「重層的支援体制整備事業移行準備事業」実施による多機関連携の支援（市）
- ・大学生を対象とした「ソーシャルワーク実習」実施による、将来の福祉人材の確保（市）
- ・子ども食堂・子育て支援団体等への助成金の交付（社協）

重点的に取り組む施策（会津若松市版地域包括ケアシステム）

目指す姿「お互いさまでみんなをつなぐまち」

- ・「地域おこし協力隊」等の配置による「地域づくり活動組織」への活動支援（市）
- ・LINEを利用したより相談しやすい環境の構築（市）
- ・「避難行動要支援者」の「個別避難計画」の策定促進（市）
- ・市役所内への相談窓口の設置（社協）

地域における重点的な取組（社会福祉協議会地域福祉活動計画）

- ・地域に出向いた相談会「あのね」の実施による相談機能の強化（社協）
- ・講師派遣や助成金交付などによる地域サロン等の活動支援（社協）

成年後見制度の利用促進（成年後見制度利用促進基本計画）

- ・中核機関「会津権利擁護・成年後見センター」による相談、研修会の実施（市）
- ・成年後見制度の利用が困難な人への市長申立ての実施や費用等の支援（市）

2 基本施策

基本目標1 みんなが活躍できる地域づくり

基本施策1-1 地域福祉の理解促進と福祉の心の育成

みんなが活躍できる地域を目指し、地域福祉活動につなげるため、地域福祉に対する意識をより多くの人に広げるよう取り組みます。

市の役割

- 地域福祉の理解促進に向けて、地域との懇談会や勉強会、講演会を開催していきます。
- 地域の取組につながるよう、他地域における地域福祉活動の事例紹介を行います。
- 社会福祉協議会や教育機関と連携し、福祉教育の推進や生涯学習の機会づくりを行います。

市の主な取組

- ▶各地区において地域ケア会議等を開催し、地域の方から広く意見をいただき、関係者間で情報の共有をしました。[16地区 50回]
- ▶地域における活動への取組につなげるため、市内で行われているさまざまな地域福祉活動を紹介した「孤立死防止等ネットワークだより『つながる』」を全戸に配付しました。
- ▶河東地域づくり委員会において、地区社会福祉協議会「河東ふれあいネットワーク」に参加し、地域課題や福祉活動に協働で取り組むことで、地域の中での助け合い・支え合い活動を行いました。
- ▶小中学校において、社会福祉協議会と連携した車いす体験、手話体験、高齢者体験などの「福祉体験教室」の開催や、「認知症サポーター養成講座」を開催しました。
- ▶市職員が地域に出向き、行政全般についてニーズに応じた講義・説明を行う「生涯学習出前講座」を実施し、地域福祉をはじめとした市の取組の普及・啓発をしました。[86回 延べ2,482名]
ほかに、地域における子育て支援をテーマにした「あいづわかまつ地域福祉を考えるフォーラム」を開催、小学校における「認知症サポーター養成講座」の実施など

社会福祉協議会の役割

- 市や教育機関、地域と連携し、人を慈しむ心、尊重する心を育むことを目的に幼少期からの福祉教育に取り組みます。
- 地域福祉活動の支援を通じて、住民一人ひとりの福祉に対する理解と関心を高めるよう取り組みます。
- 社協だより、インターネットなど多様な手法により地域福祉の広報・啓発を行います。

社会福祉協議会の主な取組

- ▶「小・中学校障がい理解促進事業出前講座」として、幼少期から福祉の心を育むため、各小中学校・市・ボランティア・関係団体と連携した福祉教育の推進に取り組みました。[11校 延べ37回]
- ▶若い世代がボランティア活動を通して、自分自身の生き方・社会を見つめる目を育む機会を目的に、学生を対象とした「自分発見ボランティア事業」や高等学校の部活動と連携した「除雪ボランティア」を実施しました。
- ▶地域の高齢者とボランティア等が共同で企画・運営する「地域サロン会」を推進するため、地域での生きがいづくり・仲間づくりの活動に対し、助成金の交付や職員や外部講師の派遣、職員による健康（健幸）運動教室などの活動支援に取り組みました。[126団体]

市民、地域、医療・福祉の専門職の役割

【市民】

- 地域福祉に関する理解に努めます。
- 地域社会を構成している一人であることを意識します。

【地域】

- 地域生活課題について意識します。
- 課題解決に向けて、可能なかぎり互助の取組を行います。
- 地域福祉やノーマライゼーション等に関する意識啓発に協力することや、従業員や学生が地域福祉活動やボランティア活動に参加することに理解を深めることに努めます。(企業・学校)
- 児童・生徒の福祉教育の実施に努めます。(学校)

【医療・福祉の専門職】

- 福祉教育や生涯学習への協力を努めます。
- 地域福祉やノーマライゼーション等に関する意識啓発への協力を努めます。

基本施策1-2 地域福祉活動の担い手の育成

みんなが活躍できる地域を目指し、地域福祉活動を担う人材の育成、活動を継続できる環境づくりに取り組みます。

市の役割

- 社会福祉協議会や教育機関と協力し、地域福祉活動の担い手やリーダーとなる人材の育成に取り組みます。
- 従業員や学生が活動に参加しやすい環境づくりに努めるよう、企業などへ働きかけを行います。
- 地域活動団体やボランティア団体、NPO法人の活動への支援を行います。
- 地域活動団体やボランティア団体、NPO法人の活動へ、市民の参加促進を図ります。

市の主な取組

- ▶各地区において地域ケア会議等を開催し、地域活動の担い手の確保等について検討を行いました。
〔16地区 50回〕
- ▶【再掲】将来の担い手確保に向け、小中学校において、社会福祉協議会と連携した車いす体験、手話体験、高齢者体験などの「福祉体験教室」の開催や、「認知症サポーター養成講座」を開催しました。
- ▶地域サロン等で介護予防講座やフレイル予防教室を開催するとともに、専門家の派遣やいきいき百歳体操サポーター・介護予防サポーターの養成・派遣など、介護予防活動の支援を行いました
- ▶社会福祉協議会と連携して地域支援ネットワークボランティア事業を実施し、ボランティア活動の活性化を図りました。
- ▶市民活動団体の活動を支援するため、団体からの相談への対応、団体活動に必要な分野についての研修会開催、団体活動に役立つホームページの運営、市民活動推進のためのイベント開催を実施しました。
ほかに「学校図書館ボランティア養成講座」や、「あいづわくわく学園」による人材の育成など

社会福祉協議会の役割

- 高校生以上を対象とした「自分発見ボランティア事業」の実施など若い世代がボランティアに理解を深め、参加につながるよう取り組みます。
- ボランティア学園を始めとした各種講座の開催により、地域で中心的に活動する人材の育成に取り組みます。
- ボランティア活動等の情報提供やマッチング機能の強化などボランティアセンターの機能強化を行います。
- 地域活動団体やボランティア団体、NPO法人の活動への支援を行います。
- 共同募金を始めとした地域福祉活動を継続できる資金の確保に取り組みます。

社会福祉協議会の主な取組

- ▶「ボランティア学園」の開催により、地域住民がボランティア活動を身近に感じ、気軽に参加できる環境を整備し、社会を支える担い手・地域活動の実践的な担い手になるよう人材の育成に取り組みました。〔6講座 延べ58名〕
- ▶新たなインターネットシステムを導入し、地域団体、NPO法人、地域サロン会等の活動に対して、講師の派遣や情報発信、ボランティアの斡旋・マッチング支援の強化に取り組みました。〔96回〕
- ▶社会福祉団体や地域ボランティアグループ、NPO法人等が行うボランティア活動や地域との交流事業に対して、共同募金を原資とした助成金を交付するなど、活動支援に取り組みました。

市民、地域、医療・福祉の専門職の役割

【市民】

- 地域活動団体やボランティア団体、NPO法人の活動に関心を高めます。
- 地域の行事や催事等に可能な限り参加するよう努めます。

【地域】

- 地域活動団体やボランティア団体、NPO法人との連携に努めます。
- 多世代の交流促進につながるような機会の創出に努めます。
- 活動に多くの住民が感心を高め、参加できるような運営に努めます。(ボランティア団体、NPO法人、地域の各種団体等)
- 従業員や学生が活動に参加しやすい環境づくりや参加を促すよう働きかけに努めます。(企業・学校)
- 地域と連携した地域福祉活動の実施に努めます。(企業・学校)

【医療・福祉の専門職】

- 地域活動団体やボランティア団体、NPO法人との連携に努めます。
- 地域のニーズを踏まえた「地域における公益的な取組」を実施します。(社会福祉法人)

基本施策1-3 誰もが活躍できる場の創出

みんなが活躍できる地域を目指し、生きがいの場や働く機会の創出により、全ての人が社会参加できる環境づくりに取り組みます。

市の役割

- 障がいについて正しい理解が得られるよう、市民や企業等への理解促進に取り組みます。
- 障がいのある人に配慮し、障がいの特性に応じた多様な手段による情報提供に努めます。
- 市民や企業等からの意見を集めることなどにより、課題を把握するとともに、地域自立支援協議会の場を活用するなど、合理的配慮（障がいに応じた配慮）にもとづき、課題解消の立案・施策展開を行い共生の地域づくりに向けて取り組みます。
- 就労に困難を抱える人へ横断的な支援を行います。
- 商工業や農業など、多様な分野との連携による就労に向けた環境づくりを図ります。
- ひきこもりなど社会的に孤立している人が活動に参加できる環境づくりに取り組みます。
- 孤立死の防止に向け、孤立死防止等ネットワーク活動の充実に取り組みます。

市の主な取組

- ▶「就職フェア in あいづ」を開催し、求職者と求人企業のマッチングを図りました。〔参加者：延べ265名 参加企業：延べ125社〕
- ▶年間を通じて、会津若松駅や文化センターに障がい者の文化芸術作品を展示しました。また、「あいづまちなかアートプロジェクト」と連携し、障がい者アート展を開催して、事業所及び個人からの作品を展示しました。
- ▶障がいのある方の就労支援として企業に対する職場体験受入の依頼や各種支援制度等を掲載した啓発チラシを市ホームページに掲載するとともに、関係機関等と協力し、企業、農業従事者等に対し、配布・啓発を行いました。
- ▶LINEから相談できる相談窓口として「あいづわかまつ まるごと相談窓口」を開設し、支援が必要な人が相談しやすい環境整備を図りました。
- ▶就労に向けた基礎能力の形成や改善が必要な方を対象とした「就労準備支援事業」を実施し、一般就労に向けた支援を行いました。
- ▶犯罪をした者等の円滑な社会復帰に向け、「再犯防止推進計画」を策定しました。
ほかに、「ユースプレイス事業」による社会参加に向けた居場所づくり、「孤立死防止等ネットワーク協定締結事業所」による見守りの実施など

社会福祉協議会の役割

- 多様な人が地域活動に参加できるよう活動の場の確保と支援に取り組みます。
- 多様な人の交流促進につながるような環境の整備に取り組みます。
- 合理的配慮（障がいに応じた配慮）にできる限り努めます。
- 障がいのある人の社会参加を促進するため、ボランティアポイントの充実に取り組みます。

社会福祉協議会の主な取組

- ▶【再掲】地域の高齢者とボランティア等が共同で企画・運営する「地域サロン会」を推進するため、地域での生きがいづくり・仲間づくりの活動に対し、助成金の交付やレクリエーション用具の貸出、職員や外部講師の派遣、職員による健康（健幸）運動教室などの活動支援に取り組みました。〔126 団体〕
- ▶多様な人の交流促進につながるよう、老人福祉センター・希ららにおいて、ボランティア団体が企画する「居場所きばらし」の開催を支援しました。〔12 回〕
- ▶障がいの有無に関わらず、誰でもボランティア活動に参加しやすい環境を作り、障がい者の社会参加を促すとともに、ボランティアの裾野を広げる取り組みとして「ありがとねボランティアポイント事業」を実施しました。〔登録 246 名（うち障がい者 31 名）〕

市民、地域、医療・福祉の専門職の役割

【市民】

- 地域福祉活動に住民同士が誘い合い参加するよう努めます。
- 多様な人が活動や就労できるよう配慮に努めます。
- 困ったことを解決するために自らできる範囲から取り組むことに努めます。
- これまでの経験や習得した技術を活かし、地域福祉活動への参加や就労に努めます。
- 合理的配慮（障がいに応じた配慮）にできる限り努めます。
- 生きがいづくりや社会参加に関心を高め、孤立死の予防、元気で生きがいを持って生活することを目指します。（高齢者）
- 障がいの特性を踏まえた地域福祉活動への参加や就労について考えます。（障がいのある人）

【地域】

- 多様な人の交流促進につながるような機会の創出に努めます。
- 多様な人が地域活動に参加できるよう努めます。
- 多様な人に就労の場を設けることに努めます。（企業・農業）

【医療・福祉の専門職】

- 地域活動の支援に努めます。
- 多様な人に就労の場を設けることに努めます。
- 一般的な就労が難しい人に活動や就労の場の紹介に努めます。

基本目標1 みんなが活躍できる地域づくりに対する評価

【市】

- 地域ケア会議等を開催し、地域住民や関係者間での情報共有や担い手の検討を行ったことは評価します。担い手不足は、地域において重要な課題であることから、今後の担い手育成などにつなげてください。
- 若者のボランティア活動等への参加につなげるには、子どものころからの教育が非常に重要となります。今後も引き続き教育機関や社会福祉協議会と連携し、福祉教育の推進に努めてください。
- 社会参加には、安定した生活が不可欠です。必要な収入を確保するための、住居や就労機会の確保に取り組むことが必要ですので、これらの取組を継続してください。
また、障がい者の社会参加のためには、障がい者への理解を深めることが重要となります。企業や農業従事者などへの広報活動や啓発活動に引き続き取り組んでください。

【社会福祉協議会】

- 若者のボランティア参加が低い状況の中、学生を除雪ボランティア活動への参加につなげたことは評価します。若者の継続的な参加に向けて取り組んでください。
- 「ボランティア学園」による担い手育成は評価します。育成した担い手が地域での活動につながっていないとの声もあり、育成した担い手が地域で活動できる仕組みづくりを求めます。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、地域サロン会数が減少していましたが、「ふれあい・いきいきサロン事業」の取り組みの成果もあり、コロナ過以前より地域サロン数が増加していることは評価します。引き続き地域包括支援センターや関係機関と連携し、より多くの人に参加できるよう取り組んでください。
- ボランティア団体による「居場所きばらし」のように、社会福祉協議会の得意とする分野との連携支援に引き続き取り組んでください。

基本目標2 みんなで支え合う地域づくり

基本施策2-1 地域交流の推進

みんなで支え合う地域を目指し、地域交流の推進を図り日常的なつながりの構築に取り組みます。

市の役割

- 活動・交流拠点となる公民館やコミュニティセンターなどの公共施設の利用促進を図ります。
- 地域サロンなど地域交流につながる活動の推進に向けて、更なる広報・啓発をするとともに、必要な支援を行います。
- 活動・交流拠点となる集会所の整備に関する情報提供、空き家利用の支援を行います。
- 町内会等の地域活動団体への加入に向けた支援を行います。

市の主な取組

- ▶地域住民同士の交流を目的に成人向け講座「ふれあうよろずカフェ」を開催し、民生委員・児童委員や地域包括支援センターとの連携により、高齢者等の訪問時にチラシを配布するなど広報活動に力を入れ参加者を募りました。〔14回 延べ311名〕
- ▶「つながりづくりポイント事業」を実施し、地域サロン等で行う介護予防活動等にポイントを付与することで、日常的なつながりの構築促進を図りました。また、地域包括支援センターと連携し、地域サロンの活動支援を行いました。
- ▶年4回全戸配布するごみ情報紙「へらすべえ」を活用し、資源物回収（集団回収・廃品回収）を行う町内会等の紹介と新たに資源物回収を実施する団体の募集を行いました。
- ▶「公共施設再編プラン」に基づき、北会津・河東地区において、地域づくり委員会等の地域づくり活動団体と連携し、支所の旧議場や学園センターの多目的ホール等、空き室の利活用の取組を進めました。
ほかに、集会所の固定資産税の減免、公民館利用登録団体への使用料の減免、「集会所整備事業補助金」交付による交流拠点確保の支援など

社会福祉協議会の役割

- 活動・交流拠点としての空き家の利用を支援します。
- 活動・交流拠点の積極的な利活用が図られるよう、地域サロン等の新設や充実に向けた支援、広報・啓発に取り組みます。
- 地区社会福祉協議会等を拠点に、地域住民が交流できる機会の創出を支援します。

社会福祉協議会の主な取組

- ▶「空き家を活用したささえあい拠点認定制度」について、地域ケア会議等において周知・啓発を行いました〔認定1団体〕
- ▶【再掲】地域の高齢者とボランティア等が共同で企画・運営する「地域サロン会」を推進するため、地域での生きがいづくり・仲間づくりの活動に対し、助成金の交付とレクリエーション用具の貸出、職員や外部講師の派遣、職員による健康（健幸）運動教室などの活動支援に取り組みました。〔126団体〕
- ▶「地区社会福祉協議会」事業について助言するなど支援に取り組みました。〔8地区（東山・北会津・湊・河東・謹教・大戸・城西・日新）〕

市民、地域、医療・福祉の専門職の役割

【市民】

- あいさつなど地域住民間のコミュニケーションに努めます。
- 町内会等の活動に関心を持ち、町内会等の地域活動団体の加入に努めます。
- 地域の行事や催事、地域サロンなどに可能な限り参加し交流に努めます。
- ICTの活用など多様なコミュニケーション手段の利用に努めます。
- 生活する地域の地域生活課題について、日頃から認識するよう努めます。

【地域】

- 日頃から住民同士の交流を深め、支え合い活動が行える関係づくりに努めます。
- 地域サロンなどの地域交流につながる活動へ、施設の貸出などの支援に努めます。
- 地域住民が地域に愛着を持てる地域づくりに努めます。(地域の各種団体等)
- 町内会等の地域活動団体の加入に向けて働きかけ、ICTの活用など多様な手段による活動内容の継続的な情報発信に努めます。(地域の各種団体等)
- 地域の公民館、コミュニティセンター、集会所などの活動・交流拠点となる施設を活用し、地域サロンなど地域交流につながる機会の創出に努めます。(地域の各種団体等)
- 地域の活動・交流拠点の整備に努めます。(地域の各種団体等)
- 従業員や学生が町内会活動に参加しやすくなるような環境づくりや参加するよう積極的に働きかけるなど、地域貢献につながる取組に努めます。(企業・学校)

【医療・福祉の専門職】

- 地域サロンなど地域交流につながる活動へ、施設の貸出や活動の支援に努めます。

基本施策2-2 支え合い活動の推進

みんなが支え合う地域を目指し、健康づくりや困りごとの支援など支え合い活動の推進に取り組みます。

市の役割

- ICTを始めとした多様なコミュニケーション手段の利用ができるよう支援します。
- 地域の取組につながるよう他の地域における地域福祉活動の事例紹介を行います。
- 健康づくりのための普及啓発や取組に対する支援を行います。
- 地域の課題解決に向けて地域と行政とが協働で取り組む「地域づくり活動組織」の活動やその組織化に向け支援を行います。
- 地区社会福祉協議会の組織化に向け社会福祉協議会の主な取組を支援します。

市の主な取組

- ▶「スマートシティ会津若松」の取組として、スマートシティの出前講座、スマホ教室支援、アプリの体験・説明会などを実施し、スマホやアプリの操作方法等について個別に相談に応じました。〔25回、400名以上〕
- ▶湊地区に「集落支援員」、「地域おこし協力隊員」を配置し、地域づくり活動組織（地域運営組織）「みんなと湊まちづくりネットワーク」の生活福祉部会の取組として、地域内交通「みなとバス」の運行や、「おでかけふれあいサロン」、「有償ボランティア」の検討などの取組の支援を行いました。
- ▶地域の課題解決に向けて地域と行政とが協働で取り組む「地域づくり活動組織」の活動やその組織化に向け支援を行いました。
- ▶地区社会福祉協議会の組織化に取り組む社会福祉協議会に対し、補助金の交付や助言等の支援を行いました。
- ▶市内の地域づくり活動組織（地域運営組織）で行われている福祉事業について、地域での勉強会や生涯学習出前講座等で事例紹介を行いました。
ほかに、高齢者の社会参加促進とつながりづくりの推進のための「スマートフォン教室」の開催、主体的な健康づくりに向けた「會津LEAD事業」の実施など

社会福祉協議会の役割

- 支え合いを行う団体への支援や、サービス提供体制が十分でない地域に対する支援に積極的に取り組みます。
- 既存のボランティア活動の推進を始め、新たなボランティア活動の仕組みづくりに取り組みます。
- 地区社会福祉協議会の未設置地区の組織化及び活動資金を含めた活動の支援を図ります。
- 地区社会福祉協議会における新たな福祉サービスの取組を支援します。
- 地域住民による地域版地域福祉活動計画の策定支援に取り組みます。
- 地域支援コーディネーターを育成し、地区社会福祉協議会に配置します。

社会福祉協議会の主な取組

- ▶ 【再掲】 新たなインターネットシステムを導入し、地域団体、NPO 法人、地域サロン会などの活動に対して、講師の派遣や情報発信、ボランティアの斡旋・マッチング支援の強化に取り組みました。〔96 回〕
- ▶ 【再掲】 社会福祉団体や地域ボランティアグループ、NPO 法人等が行うボランティア活動や地域との交流事業に対して、共同募金を原資とした助成金を交付するなど、活動支援に取り組みました。
- ▶ 地域の支え合いを進める地域において、市とともに「地区社会福祉協議会」組織化に向けた説明会を開催しました。〔3 地区〕

市民、地域、医療・福祉の専門職の役割

【市民】

- 生活する地域の地域生活課題について、日頃から認識するよう努めます。
- 地域の支え合い活動への参加に努めます。
- ICT の活用など多様なコミュニケーション手段の利用に努めます。
- 子どもや子育て世代についての理解に努め、地域で子育てをしやすい環境づくりに配慮します。

【地域】

- 地域生活課題を把握し、地域で行えることを考えます。
- 支援が必要な人を地域で支え合える活動に取り組むことに努めます。
- ICT の活用など多様なコミュニケーション手段を利用した支え合い活動に努めます。
- 他の地域における取組への関心を高め情報収集に努めます。
- 健康教室や介護予防教室等の開催など、健康づくりに努めます。
- 地域の支え合い活動への参加に努めます。(企業・学校)
- 従業員や学生が地域で活動に参加しやすい環境づくりに取り組み、参加促進に努めます。(企業・学校)

【医療・福祉の専門職】

- 地域の支え合い活動の支援に努めます。
- 地域の健康づくり活動の支援に努めます。

基本施策 2-3 住民と関係機関の連携

みんなで支え合う地域を目指し、関係機関の強みを活かした支援に向け、地域内の様々な関係機関の連携に取り組みます。

市の役割

- 社会福祉法人による「地域における公益的な取組」を支援します。
- 多様な関係機関の連携による地域福祉活動の取組を支援します。

市の主な取組

- ▶【再掲】各地区において地域ケア会議等を開催し、地域住民や関係機関の連携協力を図るとともに、地域課題解決に向けた検討を行いました。〔16 地区 50 回〕
 - ▶複雑かつ複合的な地域生活課題を抱える世帯への包括的な支援にあたり、さまざまな分野の支援者が参加する「重層的支援会議」を開催し、さまざまな支援者が連携した支援が行えるようコーディネートしました。
 - ▶NPO法人や地域包括支援センター連携による障がい者や高齢者が参加する「ふれあいレクリエーション大会」の取組や域共生社会におけるまちづくりを考える「おらがのまちづくり講演会」を支援しました。
- ほかに、社会福祉法人による「地域における公益的な取組」の取組事例の情報提供など。

社会福祉協議会の役割

- 市や関係機関、地域の各種団体等との連携を図ります。
- 地域のニーズを踏まえた「地域における公益的な取組」を行います。
- 多様な関係機関の連携による地区社会福祉協議会の組織化を支援します。
- 地域支援コーディネーターを配置し、地域住民や関係機関とのネットワークの構築に取り組みます。

社会福祉協議会の主な取組

- ▶【再掲】区長会、民生児童委員協議会、各種地域団体、行政など多様な関係機関と連携を図り、「地区社会福祉協議会」の組織化に取り組みました。
- ▶地域共生社会の取組として、地域包括支援センターをはじめ、社会福祉法人、介護事業所、ボランティアなど多様な団体との連携を図り、高齢者、障がい者、児童などさまざまな人が参加できる「ボランティアフェスタ」や「ふれあいレクリエーション大会」の開催を支援しました。
- ▶地域の身近な相談窓口として「地域なんでも相談会『あのね』」を継続して開催し、相談しやすい環境の整備と地域の困りごとの把握に取り組みました。〔延べ 20 回〕

市民、地域、医療・福祉の専門職の役割

【市民】

- ▶地域で活動する関係機関の把握に努めます。
- ▶地域生活課題の解決に向け関係機関との連携に努めます。

【地域】

- ▶地域ケア会議等に参加し関係機関との連携に努めます。
- ▶地域の各種団体や専門職等との連携に努めます。

▶社会貢献活動への参画に努めます。(企業)

【医療・福祉の専門職】

▶異なる職種を含めた専門職同士の連携に努めます。

▶地域の各種団体との連携に努めます。

▶地域の活動や催事への協力を努めます。

▶地域のニーズを踏まえた「地域における公益的な取組」を行います。(社会福祉法人)

基本目標2 みんなで支え合う地域づくりに対する評価

【市】

○「ふれあうよろずカフェ」をはじめとした地域住民同士の交流を促す事業の実施は評価します。引き続き民生委員・児童委員、地域包括支援センターなど地域のさまざまな人の協力を得ながら、地域住民の交流を進めることで、日常的なつながりの構築を図ってください。

○「つながりづくりポイント事業」については、利用者からは、ポイントをきっかけに活動への参加が増えているとの意見があり評価します。

ただし、地域によってはポイントの利用が難しいとの声もありますので、ポイントの利用環境の改善に取り組むようお願いいたします。

○地域の活動を継続していく上で、地区の活動を支援する「集落支援員」や「地域おこし協力隊員」といった人材は重要な役割を果たしていますので、配置について評価します。

○社会福祉法人やNPO法人の中には、地域住民への支援や地域との連携を目指している団体が多く存在しています。「地域における公益的な取組」の事例紹介だけではなく、企業や団体と地域との連携をより深めるための取組みもお願いいたします。

【社会福祉協議会】

○ボランティアの募集等にインターネットを使用したことは、ボランティア活動に参加の少ない若者の参加につながるものと評価します。多くの方が、ボランティア活動への参加につながるようオンライン化の取組を進めてください。

○「空き家を活用したささえあい拠点認定」は、より身近な活動拠点が求められている中で、重要な事業であると考えます。しかし、制度の利用につながっていないことから、毎年度、改善を指摘していますが、今年度も改善が見られず、問題だと認識しております。

○「地区社会福祉協議会」の組織化は第1期計画から開始し、第2期計画も3年が経過していますが、組織化に至った地区が半数の8地区にとどまっている状況です。そのような状況の中、昨年度の地区説明が3地区であり、取組の強化が必要であると指摘します。

また、組織化に至った地域においても、「設立したものの何を取り組んでいいのか」と戸惑いが見受けられます。

これについても、毎年、地区社会福祉協議会の活動目的を明確化するために、計画に位置付けている「地域版地域福祉活動計画」の策定支援に取り組むよう指摘を行っています。今年度も改善がみられず、社会福祉協議会の対応は問題であり、改善を求めます。

基本目標3 みんなが安心して暮らせる地域づくり

基本施策3-1 くらしを支える環境の整備

みんなが安心して暮らせる地域を目指し、支援の必要な人に適切な支援の届く体制の整備に取り組みます。

市の役割

- 子どもを安心して産み育てられる環境づくりを行います。
- 共働き、ひとり親家庭等が自立して生活できるために必要な支援を行います。
- 認知症について正しい理解が得られるよう、周知に取り組みます。
- 生活サポート相談窓口において、生活困窮者の適切な支援を行います。
- 災害時避難行動要支援者名簿制度の啓発や個別避難計画作成を進めます。
- バリアフリーやユニバーサルデザインを取り入れます。

市の主な取組

- ▶「認知症予防講座」や「認知症サポーター養成講座」を開催し、認知症に関する正しい知識を持つことができるよう周知を図りました。〔認知症サポーター養成講座 53回 857名〕
- ▶児童の預かり等の援助を受けたい人と援助を行いたい人との相互援助活動に関する連絡、調整を行うことにより、地域における育児の相互援助活動を推進するとともに、病児・病後児の預かり、早期・夜間等の緊急時の預かりなど多様なニーズへの対応を図る「あいづ・ファミリー・サポート・センター事業」を行いました。
- ▶ひきこもりや就労により忙しいなど、対面での相談窓口において相談をすることが難しい人でも相談しやすくなるようLINEを利用した相談窓口を設置しました。
- ▶これまでの福祉分野別での支援では効果的な支援が難しい世帯に対し、包括的な支援体制の構築に向け「重層的支援体制整備事業移行準備事業」を開始しました。
また、その中において、必要な支援が届いていない人を把握し、適切な相談支援機関につなげる「アウトリーチを通じた継続的支援事業」に取り組みました。
- ▶保育所、認定こども園等で実施する子育て支援センターにおいて、子育てに関する相談や子育て家庭の交流の場の提供等に取り組みました。
ほかに、「放課後こども教室」や「地域学校協働活動」など、地域住民の参画による子育て支援、青少年の非行防止と犯罪被害防止に向けた巡回補導、の実施、「ユニバーサルデザイン推進プラン」に基づくユニバーサルデザインの推進など

社会福祉協議会の役割

- フードバンクや子ども食堂、認知症カフェの取組を支援します。
- 生活福祉資金の貸付や食料品等緊急支援により生活困窮者の支援を図ります。
- 災害時避難行動要支援者の個別避難計画作成を支援します。
- 災害時の福祉避難所に対する運営支援に取り組みます。
- 災害ボランティアセンターの機能強化に取り組みます。
- 日常生活自立支援事業（あんしんサポート事業）の広報と体制の充実に努めます。
- 成年後見制度の利用促進に向けて、関係機関と連携して広報・啓発に取り組みます。
- 障がいに対する正しい理解の啓発と、障がいのある人の自立に向けた地域の環境づくりに取り組みます。

社会福祉協議会の主な取組

- ▶企業や関係機関と連携し、フードバンク事業を推進するとともに、子ども食堂・子育て支援団体等へ助成金の交付やボランティアのマッチングを行い、活動を支援しました。
- ▶市生活サポート相談窓口へ職員を派遣し、生活資金貸付や緊急食料の提供を通して生活困窮者の支援に取り組みました。
- ▶市や関係機関との協定をもとに、ボランティア学園受講者並びに登録ボランティアとともに、県・市防災訓練に参加し、「災害ボランティアセンター設置訓練」を実施するなど、機能強化に取り組みました。

市民、地域、医療・福祉の専門職の役割

【市民】

- 認知症の人や障がいのある人に対する理解を深め、配慮します。
- 虐待を発見したときは、支援関係機関や行政機関へ通報します。
- 近所の災害時避難行動要支援者の支援について考えます。
- 災害時の避難に向けて個別避難計画作成に協力します。（災害時避難行動要支援者）

【地域】

- 困っている人の支援に努めます。
- 誰もが参加しやすい行事や催事の開催に努めます。
- ICTの活用など多様なコミュニケーション手段の利用に努めます。
- 災害時避難行動要支援者の支援体制づくりに協力します。
- 地域での防犯・防災訓練の実施など、日頃から防犯・防災意識の啓発に努めます。

【医療・福祉の専門職】

- 要支援者に対する声かけや見守りを通して、防犯・防災意識の向上に努めます。
- 災害時避難行動要支援者の個別避難計画作成の支援に努めます。

基本施策 3-2 情報提供と相談体制の整備

みんなが安心して暮らせる地域を目指し、福祉サービスの的確な情報発信と、多様な課題に対応できる相談体制の構築に取り組みます。

市の役割

- ▶ ICTの利用など、わかりやすい方法で福祉情報の提供を図ります。
- ▶ 複合的な地域生活課題を持つ人の課題を関係機関と共有し、連携して課題解決に取り組みます。
- ▶ 身近な相談機関や断らない相談体制の整備に取り組みます。
- ▶ 相談者が適切な相談機関につながるようコーディネートを行います。
- ▶ 民生委員・児童委員の活動しやすい環境づくりを行います。
- ▶ 専門的な人材の配置や、相談業務を行う人材に対する研修等を行い、相談体制の強化を図ります。

市の主な取組

- ▶ 個別の相談機関だけでは対応の難しい、複雑化・複合化した地域生活課題への支援にあたり「重層的支援会議」を開催し、支援の目的や方向性の明確化、役割の調整を行うことで、効果的な支援を図りました。〔8回(2世帯)〕
 - ▶ 【再掲】「スマートシティ会津若松」の取組として、出前講座、スマホ教室支援、アプリの体験・説明会などを実施し、スマホやアプリの操作方法等について個別に相談に応じました。〔25回 延べ400名以上〕
 - ▶ 民生委員・児童委員へ市の福祉サービス等の情報提供を行うとともに、研修機会を拡充するための支援を行いました。また、民生委員の福祉活動を広く市民等に知ってもらうための広報活動を実施しました。
 - ▶ 課題を抱えているが相談方法を知らない人、課題を抱えていることを認識していない人などの「潜在的相談者」が適切な相談機関につなげるため、「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業」を開始しました。
 - ▶ 専門知見を有する弁護士、司法書士、ファイナンシャルプランナーを納税等相談専門員に委嘱し、多重債務等で納税が困難な市民を対象に改善に向けた助言を行う納税等相談の実施。
 - ▶ 日本赤十字奉仕団と連携し、スマートフォンの地図アプリ等でAEDを貸出する企業等の情報提供を開始しました。
- ほかに、「あいべあ」による「防災情報」や「休日緊急医情報」等の配信、パンフレットやホームページにおける相談窓口の紹介、ユニバーサルデザイン施設を掲載した「福祉まっぷ」のホームページでの公表など

社会福祉協議会の役割

- 社協だよりやインターネットなど、わかりやすい方法での福祉サービスの情報提供を行います。
- ふれあい福祉センター総合生活相談所の充実に取り組みます。
- 支援の必要な人が支援につながるようアウトリーチによる相談に積極的に取り組みます。
- 支援の必要な人と関係機関とのコーディネートや新たな支援に向けた仕組みづくりを行う地域支援コーディネーターの育成・配置に取り組みます。
- 支援の必要な人が支援につながるよう、戸別訪問による相談、インターネットを利用した相談など、積極的な相談に取り組みます。
- 地区社会福祉協議会における相談体制の構築に向けて支援します。
- 複合的な地域生活課題を持つ人の課題を市や関係機関と共有し、連携して課題解決に取り組みます。

社会福祉協議会の主な取組

- ▶「社協だより」や「桜河苑だより」の発行、ホームページやフェイスブックにより、地域福祉の広報・啓発に取り組みました。
- ▶【再掲】地域の身近な相談窓口として「地域なんでも相談会『あのね』」を継続して開催し、相談しやすい環境の整備と地域の困りごとの把握に取り組みました。〔延べ 20 回〕
- ▶市から「重層的支援体制整備事業」の「アウトリーチ等を通じた継続的支援業務委託」を受託し、地域ケア会議等へ出席し、複雑な課題を抱えながらも支援が届いていない人の情報の収集・把握し、相談支援に取り組みました。

市民、地域、医療・福祉の専門職の役割

【市民】

- 市のホームページや広報紙などにより日頃から相談機関に関する情報の把握に努めます。
- 自ら解決が難しい地域生活課題は相談機関に相談します。
- 支援を必要としている人に相談機関を紹介します。

【地域】

- 支援を必要としている人への相談窓口の情報提供に努めます。
- 地域で解決が難しい地域生活課題は相談機関へつなぎます。
- 回覧板や活動拠点への掲示、インターネット等により住民に必要な情報をわかりやすく伝えることに努めます。（地域の各種団体等）
- 支援を必要としている人に福祉サービスの情報を提供し、適切な相談機関へつなぎます。（民生委員・児童委員）

【医療・福祉の専門職】

- 日頃から各種相談窓口の情報把握に努め、利用者や相談者に対する周知に協力します。
- 地域生活課題の解決に向け専門機関同士の連携に努めます。
- 自ら解決が難しい地域生活課題は他の専門機関につなぐほか、連携して課題解決に取り組みます。

基本施策3-3 医療・福祉サービスの充実

みんなが安心して暮らせる地域を目指して、医療や福祉サービスの質の向上を図るなど、誰もが適切なサービスを利用しやすい環境づくりに取り組みます。

市の役割

- 福祉サービス利用者の声を吸い上げ、関係機関に伝え、福祉サービスの充実を図ります。
- 福祉サービスについての正しい理解を深められるよう、福祉サービスについての的確な情報発信を行います。
- 市民が安心して必要な医療や福祉サービスが受けられるよう、医療・福祉人材の確保や育成を支援します。
- 他職種間の連携を支援します。
- 医療と介護の連携など各分野の連携に取り組みます。
- 高齢者や障がいのある人が共に利用できる共生型サービスの導入に向けて取り組みます。
- 医師会、歯科医師会及び薬剤師会を始めとする関係機関との連携のもと、地域医療体制の確保に努めます。
- 医療機関や保健所等との連携により、難病患者への支援のあり方について対応を進めていきます。
- 母子の健康の確保に向けた、かかりつけ医の推奨など地域医療機関との連携を図ります。また、保健・医療・福祉の連携による障がい児への支援や障がい者へのサービス提供体制の充実を図ります。

市の主な取組

- ▶夜間・休日の救急医療体制の確保を図るため、会津若松医師会や二次救急医療病院群、会津保健福祉事務所等を運営委員とした「夜間急病センター運営協議会」、「救急医療病院輪番制運営協議会」を開催し、救急医療の円滑な運営に努めました。
 - ▶地域内におけるより良い生活環境を目指し、通院や買い物等日頃の外出時の移動手段として、地域内交通「ふれあい号」、「みなづる号」を運営しました。
 - ▶「第7期障がい福祉計画」の策定にあたり、障がい福祉サービス事業所からの意見などを踏まえ、障がい福祉サービスの充実を図っていくための課題や今後の取組などを整理しました。
 - ▶「在宅医療・介護連携推進事業」により、専門機関との連携を推進しました。
 - ▶福祉の専門職を志す大学生を対象に「ソーシャルワーク実習」を行い、将来の福祉人材の育成に努めました。
- ほかに、「オンライン診療」や「オンライン服薬指導」などの取組の支援、相談支援員のスキル向上に向けた研修会など。

社会福祉協議会の役割

- 利用者からのニーズの把握に努め、更に利用しやすい事業の充実を図ります。
- 実習生や研修生の受入、相談会の開催など福祉人材の育成や確保に向けて取り組みます。

社会福祉協議会の主な取組

- ▶関係機関と連携し、利用者からのニーズの把握に努め、判断力が低下した認知症高齢者などの権利を擁護し、地域で安心した生活が送れることを目的に「日常生活自立支援事業あんしんサポート事業」に取り組みました。
- ▶児童発達支援センターを開設し、障がいのある子どもやその家族への相談支援、障がいのある子どもを預かる施設への助言や援助を行う機能の強化、充実に努めました。
- ▶福祉人材確保を図るため、関係機関と連携し、求人求職情報の提供や「福祉の仕事相談会」の開催など、地域の実情に応じた人材確保対策に取り組みました。

市民、地域、医療・福祉の専門職の役割

【市民】

- 医療・福祉サービス等に関心を持ち、状況に応じ適正なサービスを利用することに努めます。
- 医療・福祉サービス等に気がついた点があればサービス提供者に伝えます。

【地域】

- 住民間で医療・福祉サービス等の情報交換・収集ができる機会づくりに努めます。(地域の各種団体等)

【医療・福祉の専門職】

- 専門機関同士、他職種間での連携や情報共有に努めます。
- 福祉サービスに関する情報を利用者にわかりやすく伝えるよう努めます。
- 利用者からのニーズの把握に努め、更に利用しやすい事業の充実を図ります。
- 福祉サービスの質の向上につながるよう、人材育成や職場環境の向上に努めます。
- 市民が安心して必要な医療・福祉サービスが受けられるよう、人材の確保に努めます。

基本目標3 みんなが安心して暮らせる地域づくりに対する評価

【市】

- 単独の支援機関だけでは効果的な支援が困難な、複雑かつ複合化した地域生活課題を持つ世帯に、複数の相談支援機関が連携して支援する「重層的支援体制整備移行準備事業」の開始は評価します。しかしながら、「アウトリーチを通じた継続的支援事業」においては、支援が必要な人を相談機関につなぐなど、一定の成果が見られましたが、課題を抱えた人々の捉え方に課題が残っていることから、事業の検証・改善に取り組んでください。
- 「避難行動要支援者名簿」を関係者と共有することで、防災をテーマにしたミニケア会議が一部の地域で開催され、地域防災への意識が高まっています。この取組を「避難行動要支援者」の「個別避難計画」の策定につなげてください。
また、災害時には避難所の運営など医療や福祉との連携が重要となることから、緊急事態時に備えた情報共有や連携強化に取り組んでください。
- 市では、インターネットを通じてさまざまな情報発信を行っていますが、スマートフォンが使えない層も一定程度存在しています。スマートフォンを利用できるよう支援を行ったことは評価します。引き続き、情報格差が生まれにくいような取組みを進めてください。
- 「夜間急病センター運営協議会」や「救急医療病院輪番制運営協議会」により、夜間・休日の救急医療体制の確保が図られたことは評価します。
- 福祉や医療の現場においては、人材が不足しています。人材確保に向けて、新規就労者の確保や離職者が職場に復帰しやすい取組を推進してください。

【社会福祉協議会】

- 「児童発達支援センター」を開設し、障がいのある子どもやその家族への相談支援の強化が図られたことは評価します。今後のセンター機能の充実に期待します。
- 近年は大雨による災害が増えている状況の中において、ボランティア参加による「災害ボランティアセンター設置訓練」の実施は評価します。
- 市から受託した「アウトリーチを通じた継続的支援事業」では、支援が必要な人を相談機関につなぐなどの一定の成果はあったものの、複雑化・複合化した地域生活課題を抱えた人の把握に至らなかったことから、情報収集の強化に取り組んでください。

3 重点的に取り組む施策

重点的な取組1 住民参画による地域づくり
課題を持つ人の地域での孤立 → 安心できる支え合いの輪を広げます
具体的な施策
○地域福祉に対する理解促進 ○地域住民と関係機関の連携 ○多世代参加型の地域サロンを始めとした住民の居場所や活動の場の確保 ○地区社会福祉協議会活動の推進（未設置地区は組織化の推進） ○有償ボランティアやボランティアポイント制度の検討
市の主な取組
▶【再掲】各地区において地域ケア会議等を開催し、地域の見守り・支援体制づくりを推進しました。 〔16地区 50回〕
▶【再掲】「つながりづくりポイント事業」を実施し、地域活動やボランティア活動等にポイントを付与することで活動への参加促進を図りました。また、地域サロン等で行う介護予防活動等にポイントを付与することで、地域サロンの活動支援を行いました。
▶【再掲】湊や大戸地区に「集落支援員」や「地域おこし協力隊員」を配置し、「地域づくり活動組織」が行う取組の支援を行いました。
▶【再掲】複雑かつ複合的な地域生活課題を抱える世帯へ、相談支援が連携し包括的な支援を行うため「重層的支援会議」を開催し、さまざまな職種の連携による支援に取り組みました。
▶【再掲】地域の課題解決に向けて地域と行政とが協働で取り組む「地域づくり活動組織」の組織化に向け説明会や支援を行いました。 そのほか、「あいづわかまつ地域福祉を考えるフォーラム」の開催、NPO法人による勉強会の開催 支援による地域福祉に対する意識の醸成など
社会福祉協議会の主な取組
▶区長会、民生児童委員協議会、各種地域団体、行政など多様な関係機関と連携を図り、「地区社会福祉協議会」の組織化に取り組みました。
▶【再掲】障がいの有無に関わらず、誰でもボランティア活動に参加しやすい環境を作り、障がい者の社会参加を促すとともに、ボランティアの裾野を広げる取り組みとして「ありがとねボランティアポイント事業」を実施しました。〔登録246名（うち障がい者31名）〕
▶地域住民と区長、民生委員・児童委員、ボランティアなど地域の多様な人と連携し、見守りにもつながる「地域サロン会」の推進を図りました。

重点的な取組2 相談・支援体制の充実した地域づくり

福祉分野などによる縦割り → 誰もが相談しやすくします

具体的な施策

- 多様な課題を包括的に受け止められる相談体制の整備
- 支援関係者が連携して支援に取り組むためのコーディネート
- 課題を持つ人のライフステージの変化に応じた継続的な支援

市の主な取組

- ▶【再掲】国の「重層的支援体制整備移行準備事業」を活用し、複雑かつ複合的な地域生活課題を抱える世帯へ、福祉分野や制度にとらわれない包括的な支援ができる体制の構築を進めました。
- ▶【再掲】LINEから相談できる相談窓口として「あいづわかまつ まるごと相談窓口」を開設し、支援が必要な人が相談しやすい環境整備を図りました。
- ▶【再掲】課題を抱えているが相談方法を知らない人、課題を抱えていることを認識していない人などの「潜在的相談者」に対して適切な相談機関につなげるため、「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業」を開始しました。
- ▶【再掲】複雑かつ複合的な地域生活課題を抱える世帯に対し、さまざまな支援機関が参加する「重層的支援会議」を開催し、効果的な支援に取り組みました。

社会福祉協議会の主な取組

- ▶「日常生活自立支援事業〔あんしんサポート事業〕」等、利用者の課題解決に向けて、「個別ケア会議等」開催の働きかけを行い、関係機関と情報共有を行いながら課題解決に向けて取り組みました。
- ▶市に職員を派遣し、「生活サポート相談窓口」と連携のもと、早期の課題解決に取り組みました。
- ▶生活福祉資金貸付の借入世帯等複合的な課題を抱える世帯等に対し、相談支援事業所等へ個別会議開催の働きかけを行い、関係機関と連携し課題解決に向けて取り組みました。

重点的な取組3 常時・非常時の切れ目のない支え合いの地域づくり

災害時の具体的対応が不明確 → 普段からの取組で非常時に備えます

具体的な施策

- 防災をきっかけとした日常的な支援体制の構築
- 災害時避難行動要支援者名簿作成への理解促進
- 災害時避難行動要支援者の個別避難計画の作成推進

市の主な取組

- ▶ 防災をテーマとした町内会単位の「ミニ地域ケア会議」の開催等により、地域防災の話し合いを行いました。
- ▶ 【再掲】「避難行動要支援者名簿」を町内会や民生委員・児童委員等の地域の関係者と共有し、災害時に「避難行動要支援者」が避難行動の支援を得られやすいような環境づくりに取り組みました。
- ▶ 「避難行動要支援者」に対し、名簿登録や「個別避難計画」作成に関する同意書やチラシを送付し、制度の啓発や制度利用の促進を図りました。
- ▶ 市直営や福祉事業所への委託により、計画作成に同意を得た「避難行動要支援者」を訪問し、「個別避難計画」作成を進めました。

社会福祉協議会の主な取組

- ▶ 災害ボランティアセンターや災害ボランティアサポーターの要綱等を整備し、非常時に応急対応ができる体制整備に取り組みました。
- ▶ 「地域ケア会議」等、関係機関会議に参加し、情報共有を図りました。
- ▶ 【再掲】非常時にも支え合える地域に向けて、「地域サロン会」の推進や「地区社会福祉協議会」の組織化に取り組みました。

重点的に取り組む施策評価

【市】

- 「重層的支援体制整備移行準備事業」の実施により、相談支援機関の連携が容易になり、単独の支援機関だけでは効果的な支援を行うことが難しい人に対して、適切な支援が進んでいることに対し評価します。
相談・支援体制の充実に向け、「重層的支援体制整備事業」への移行を進めてください。
- 防災をテーマとした「ミニ地域ケア会議」を開催し、災害時の支援など、地域防災の推進だけでなく、日常の見守りにおいても成果を上げることができたこの取り組みを評価します。
「避難行動要支援者」の「個別避難計画」の策定を進めるとともに、要支援者が福祉避難所に直接避難できるように取り組んでください。
- 住民参画による地域づくりの取組は、福祉分野だけでは難しいことから、庁内連携を図りながら進めてください。

【社会福祉協議会】

- 「地区社会福祉協議会」の組織化は、第1期計画から取り組み、第2期計画も3年が経過しましたが、まだ半分の地区にとどまっている状況です。
これまでに説明してきた団体だけではなく、より多くの地域の人たちから理解を得る努力を行い、計画期間中に全ての地区において組織化できるよう取り組んでください。
- 「災害ボランティアセンター」の見直しを行っていることは、評価します。集中的な豪雨の発生が増加していることから、発災時には早急に設置し、運営できるよう市との連携に努めてください。

4 地域における重点的な取組

(社会福祉協議会地域福祉活動計画の取組)

鶴城地区
社会福祉協議会の役割
○高齢者の健康維持・向上に向けた地域サロンの啓発・広報 ○町内会と連携した地域内有償ボランティア制度の研究 ○地域全体で見守り・支え合い活動ができる取組の支援
社会福祉協議会の主な取組
▶地域サロンに職員を派遣し、介護予防や健康（健幸）体操の実施などに取り組みました。 ▶「地区社会福祉協議会」の組織化に向けて、関係機関と連携した説明会の開催等に取り組みました。

行仁地区
社会福祉協議会の役割
○活動・交流拠点確保に向けた地域と福祉施設等とのコーディネート ○地域で活動するボランティア人材の育成に向けた研修会の実施 ○町内会ぐるみで一人暮らし高齢者等への声かけや見守りの構築
社会福祉協議会の主な取組
▶「地区社会福祉協議会」の組織化に向けて、関係機関と連携した説明会の開催等に取り組みました。 ▶地域サロンに職員やボランティアを派遣し、レクリエーションや介護予防、健康（健幸）体操など、健康増進活動に取り組みました。

東山地区
社会福祉協議会の役割
○東山・人と地域をつなぐ会への地域の相談窓口の設置 ○地域福祉の啓発を目的とした東山・人と地域をつなぐ会との連携による研修会の開催
社会福祉協議会の主な取組
▶地区社会福祉協議会「東山・人と地域をつなぐ会」の会議や事業の開催を支援しました。 ▶地域サロンに職員やボランティアを派遣し、レクリエーションや介護予防、健康（健幸）体操など、健康増進活動に取り組みました。 ▶地域の身近な相談窓口として「地域なんでも相談会『あのね』」を継続して開催し、相談しやすい環境の整備と地域の困りごとの把握に取り組みました。

城西地区
社会福祉協議会の役割
<ul style="list-style-type: none"> ○地域サロンを通して参加者同士が見守り・支え合いができるよう支援 ○地域で活動するボランティア人材の育成に向けた研修会の実施 ○地域福祉活動を担うボランティア団体等の活動への支援
社会福祉協議会の主な取組
<ul style="list-style-type: none"> ▶地域サロンに職員やボランティアを派遣し、レクリエーションや介護予防、健康（健幸）体操など、健康増進活動に取り組みました。 ▶地区社会福祉協議会「城西ぬくもりネットワーク」の「一人暮らし高齢者昼食会事業」、「担い手養成講座」の開催を支援しました。

謹教地区
社会福祉協議会の役割
<ul style="list-style-type: none"> ○活動・交流拠点の確保に向けた地域と空き店舗等の所有者とのコーディネート ○地域サロンの新設に向けた地域サロンの担い手の育成
社会福祉協議会の主な取組
<ul style="list-style-type: none"> ▶地域サロンに職員やボランティアを派遣し、レクリエーションや介護予防、健康（健幸）体操など、健康増進活動に取り組みました。 ▶地区社会福祉協議会「謹教ふれあいネットワーク」会議や「世代間交流事業」の開催を支援しました。

門田地区
社会福祉協議会の役割
<ul style="list-style-type: none"> ○地域で活動するボランティアの組織化を視野に入れたボランティア活動の支援 ○地域と連携した多世代が参加できる交流の場の創設 ○地域福祉活動の意識の醸成に向けた研修の実施
社会福祉協議会の主な取組
<ul style="list-style-type: none"> ▶「地区社会福祉協議会」の組織化に向けて、関係機関と連携した説明会の開催等に取り組みました。 ▶地域サロンに職員やボランティアを派遣し、レクリエーションや介護予防、健康（健幸）体操など、健康増進活動に取り組みました。 ▶地域サロン会などが行う小学生への挨拶運動の開催に協力しました。

大戸地区
社会福祉協議会の役割
<ul style="list-style-type: none"> ○地域課題の解決に向けた大戸まちづくり協議会等と連携 ○大戸まちづくり協議会と連携したボランティア・地域福祉活動について研修会の開催 ○地域内の支え合いに向けたボランティアバンクの検討
社会福祉協議会の主な取組
<ul style="list-style-type: none"> ▶地域サロンに職員やボランティアを派遣し、レクリエーションや介護予防、健康（健幸）体操など、健康増進活動に取り組みました。 ▶地区社会福祉協議会「大戸まちづくり協議会ほほえみふくし部会」による事業の開催を支援しました。

城北地区
社会福祉協議会の役割
<ul style="list-style-type: none"> ○活動・交流拠点確保に向けた地域と福祉施設や企業とのコーディネート ○地域住民間の顔の見える関係の構築に向けた、老人会、地域サロン活動の支援 ○地域で活動するボランティア人材の育成に向けた研修会の実施
社会福祉協議会の主な取組
<ul style="list-style-type: none"> ▶「地区社会福祉協議会」の組織化に向けて、関係機関と連携した説明会の開催等に取り組みました。 ▶地域サロンに職員やボランティアを派遣し、レクリエーションや介護予防、健康体操など、健康増進活動に取り組みました。

日新地区
社会福祉協議会の役割
<ul style="list-style-type: none"> ○次世代の人材育成に向けた研修会の実施 ○災害時の支援につながる関係性の構築に向けた世代間交流の支援 ○地域サロン等での介護予防及び健康づくりの支援
社会福祉協議会の主な取組
<ul style="list-style-type: none"> ▶地域サロンに職員やボランティアを派遣し、レクリエーションや介護予防、健康体操など、健康増進活動に取り組みました。 ▶「日新地区社会福祉協議会」会議や事業の開催に協力しました。

町北地区・高野地区
社会福祉協議会の役割
<ul style="list-style-type: none"> ○地域課題の解決に向けた永和地区地域づくり協議会等との連携 ○地域と連携した買い物に行くことが難しい人等への支援体制の構築 ○地域で活動するボランティア人材の育成に向けた研修会の実施
社会福祉協議会の主な取組
<ul style="list-style-type: none"> ▶地域サロンに職員やボランティアを派遣し、レクリエーションや介護予防、健康（健幸）体操など、健康増進活動に取り組みました。 ▶「永和地区地域づくり協議会」へ参加し、地区社会福祉協議会機能について説明するなど組織化に向けて取り組みました。

神指地区
社会福祉協議会の役割
<ul style="list-style-type: none"> ○支え合える地域づくりを目指し、地域サロンにおいて地域福祉講座の継続的な実施 ○町内会や地域サロンと連携した、より身近な活動・集いの場の確保 ○地域と連携した買い物に行くことが難しい人等への支援体制の構築
社会福祉協議会の主な取組
<ul style="list-style-type: none"> ▶「地区社会福祉協議会」の組織化に向けて、関係機関と連携した説明会の開催等に取り組みました。 ▶地域サロンに職員やボランティアを派遣し、レクリエーションや介護予防、健康（健幸）体操など、健康増進活動に取り組みました。

一箕地区
社会福祉協議会の役割
<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民間の顔の見える関係の構築に向け、地域サロンの広報・啓発により参加促進 ○障がいのある人と子どもや高齢者が参加できる行事の開催 ○地域共生社会に向けた研修の実施
社会福祉協議会の主な取組
<ul style="list-style-type: none"> ▶地域サロンに職員やボランティアを派遣し、レクリエーションや介護予防、健康（健幸）体操など、健康増進活動に取り組みました。 ▶地域共生社会の取り組みとして、地域包括支援センターをはじめ、社会福祉法人、介護事業所、ボランティアなど多様な団体と連携を図り、高齢者、障がい者、子どもなどさまざまな人が参加できる「ふれあいレクリエーション大会」の開催を支援しました。 ▶「地区社会福祉協議会」設立に向けて、関係機関と連携して説明会を開催するなど取り組みました。

湊地区
社会福祉協議会の役割
○みんなと湊まちづくりネットワークが行う地域全体で支え合い活動「みなと " たすけ愛 " サービス」の支援
○みんなと湊まちづくりネットワークへの地域の相談窓口の設置
社会福祉協議会の主な取組
▶地域サロンに職員やボランティアを派遣し、レクリエーションや介護予防、健康（健幸）体操など、健康増進活動に取り組みました。
▶「みんなと湊まちづくりネットワーク」による会議や地域活動に参加し、地域助け合いの充実に取り組みました。

北会津地区
社会福祉協議会の役割
○北会津ふれあいネットワークによる地域サロン新設に向けた取組の支援
○北会津ふれあいネットワークと連携した、活動を支える担い手の育成に向けた研修会等の実施
社会福祉協議会の主な取組
▶地域の身近な相談窓口として「地域なんでも相談会『あのね』」を継続して開催し、相談しやすい環境の整備と地域の困りごとの把握に取り組みました。
▶北会津地区社会福祉協議会「北会津ふれあいネットワーク」が開催した「健幸スクール北会津校」や「一人暮らし高齢者支援事業」などの開催支援に取り組みました。
▶「北会津ふれあいネットワーク」が行う、地域住民の見守り活動「SOSネットワーク模擬訓練」や「防災訓練」の開催を支援しました。

河東地区
社会福祉協議会の役割
○河東ふれあいネットワークと連携した、活動を支える担い手の育成に向けた研修会等の実施
○河東ふれあいネットワークによる地域サロン新設に向けた取組の支援
社会福祉協議会の主な取組
▶河東地区社会福祉協議会「河東ふれあいネットワーク」が開催した、「地域から始まるふくしの時間」などと連携した活動を支える担い手の育成や、「健幸スクール河東校」などの開催支援に取り組みました。
▶「地域サロン」新設に向け「ボッチャ」や「スカットボール」の定例開催を支援しました。
▶「認知症見守りネットワーク事業」など、地域住民同士の支え合い事業の開催を支援しました。

地域における重点的な取組評価

○東山地区で引き続き「地域なんでも相談会『あのね』」を実施するなど、一部の地域においては計画の推進が図られているものと認識しております。

しかし、多くの地区の取組が、計画に位置付けられた「社会福祉協議会の役割」とは異なるもので、その内容も、「地域サロン会への職員等の派遣」、既に地域で取り組んでいる活動の「開催支援」、「地区社会福祉協議会組織化へ説明」となっています。

地域における重点的な取組は、その地域特有の地域生活課題解消に向け、社会福祉協議会が地域の人たちと協力して取り組むことを位置付けたものです。

計画が適切に推進されているとはいえない状況であり、計画の意義を踏まえた取組を行うよう改善を求めます。

5 成年後見制度利用促進基本計画

施策の目標

成年後見制度の利用が必要な人を発見し、適切に必要な支援につなげる地域連携の仕組みとなる「権利擁護支援の地域連携ネットワーク」の構築を進めます。

施策の方針

- 必要な人が、自分らしい生活を守るための制度として成年後見制度を利用できるよう、相談窓口を整備します。
- 権利擁護支援の必要な人を発見し、適切に必要な支援につなげる地域連携の仕組みとして、権利擁護支援の地域連携ネットワーク及び中核機関を段階的に整備します。
- 成年後見制度に関係する機関等との連携及び調整について、医療機関、金融機関等との協力体制を構築し、本人を見守る「チーム」や地域における支援体制として「協議会」を整備します。
- 成年後見制度を利用したくても自ら申立てることが困難であったり、身近に申し立てる親族がいなかったり、申し立ての経費や成年後見人等の報酬を負担できない等の理由により制度を利用できない方に対し、申し立ての支援や助成等を実施し、利用の支援を行います。

市の主な取組

- ▶11市町村共同で、令和4年7月に中核機関「会津権利擁護・成年後見センター」を設置し、成年後見制度に関する専門の相談窓口を開設しました。
- ▶成年後見制度を利用したくても自ら申立てることが困難である人、申し立ての経費や成年後見人等の報酬を負担できない人等に対し、市長申立や申立ての費用・報酬等の助成を行いました。
- ▶中核機関では、成年後見制度利用促進のため、相談受付のほか、市民や支援者向けの講演会や研修会・申立支援・後見人等支援・地域連携ネットワークの構築を行いました。
- ▶中核機関が事務局となって協議会を開催し、成年後見制度に関する関係機関と連携を図りました。

成年後見制度利用促進基本計画評価

- 成年後見制度の利用促進に向けて、その中心的な役割を果たす「中核機関」による窓口の設置や、制度を利用したくても利用できない人に対する市長申立の実施、費用助成などの支援は、市民の権利擁護にとって非常に効果的な取組です。これらの取組を高く評価します。
また、利用促進に向けて行われる講演会などによる理解促進や、申立支援などの利用促進に引き続き取り組んでください。
- 「会津権利擁護・成年後見センター」を活用した、成年後見制度の理解促進、後見人等の育成、広報啓発の取組も高く評価しますので、引き続き取り組んでください。

6 全体評価

○令和5年度は、第2期計画の3年目となり、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策による活動自粛が解除され、地域の交流活動が再開されています。しかし、人材不足が依然として課題となっています。

地域福祉活動への参加は、かつては、子ども会への参加をきっかけに地域のさまざまな役割を担い、定年退職後には町内会の役員になるという、主な道筋がありました。現在は、少子化に伴い子ども会がなくなる地域もあり、町内会活動に参加するきっかけが減っている状況です。また、定年退職後に働く人も増えるなど、地域の担い手が少なくなっている現状です。

そのような状況を踏まえ、若いうちからの地域福祉活動につなげる取組に期待します。

○市や社会福祉協議会が学校と連携して、「認知症サポーター養成講座」や、「小・中学校障がい理解促進事業出前講座」など、福祉教育に取り組んでいることを評価します。これらの取組は若者が地域福祉活動への参加のきっかけとなるものですので、継続して取り組んでください。

○「つながりづくりポイント事業」は、これまで活動に参加していない人が活動に参加するきっかけになっており、効果的な取組と評価します。登録が少ない若者の参加を促すような仕組みに期待します。

また、市の「つながりづくりポイント事業」と社会福祉協議会の「ありがとねボランティアポイント」が類似の取組となっていたため、ボランティア活動の参加に向けて効果的な運営に取り組んでください。

○地域づくり活動組織では、「集落支援員」、「地域おこし協力隊員」を配置し、「地域づくりビジョン」に基づいた効果的な取組が行われていると評価します。

その一方で、地区社会福祉協議会の中には、組織化したものの活動に対する戸惑いが見られます。社会福祉協議会は、地区社会福祉協議会が「地域版地域福祉活動計画」を策定のための支援と、「地域支援コーディネーター」を適切に配置し、活動支援の充実に取り組んでください。

○新たに開始された「重層的支援体制整備移行準備事業」において、必要な支援が届くための取組や、「重層的支援会議」など関係機関が連携するための体制整備が進んだことは、「会津若松市版地域包括ケアシステム」の構築につながるものと評価します。

今後は、事業課題を整理し、「重層的支援体制整備事業」への円滑な移行に努めてください。

○「地域における重点的な取組」については、取組の多くが計画に位置付けられた社会福祉協議会の役割とは異なるもので、その内容も多く地区において類似のものとなっています。

社会福祉協議会においては、「地域における重点的な取組」が、社会福祉協議会の活動指針として位置付けている「地域福祉活動計画」の中核となるものであることを踏まえ、計画執行を適切に行うよう指摘します

○高齢化社会の進展により成年後見制度の利用者の増加が見込まれます。そのような状況を見据え、市民後見人の育成に引き続き努めてください。

7 会津若松市地域福祉計画等推進会議委員名簿

団 体 名	役 職	氏 名	備 考
会津大学	短期大学部産業情報科准教授	木谷 耕平	会長
福島県司法書士会	司法書士	遠藤 希	
会津若松地区保護司会	副会長	菊池 芳次	
会津若松市区長会	厚生副部長	馬場 謙治	
会津若松市民生児童委員協議会	理事	小山 豊	
会津若松市地域自立支援協議会	会長	渡部 淳	
会津若松市手をつなぐ親の会	会長	渡部 香世子	
認知症の人と家族の会会津地区会	代表	阿久津 恵子	
会津若松市地域包括支援センター連絡会	若松第2地域包括支援センター管理者	榎森 智絵	
会津若松市保育所連合会	副会長	愛澤 裕美子	
会津若松市幼児教育振興協会	顧問	橋本 希義	
福島県若年者支援センター	ユースプレイス事業主任	成田 久美子	
男女共同参画推進活動ネットワーク	真珠の会会計監査	加藤 宏子	
NPOLinks あいづ	共同代表	山口 巴	
会津若松市赤十字奉仕団	副委員長	吉田 義子	
会津若松市ボランティア連絡協議会	庶務	熊田 洋子	
みんなと湊まちづくりネットワーク	事務局長	坂内 美智男	副会長
北会津地域づくり委員会	会長	赤羽 吟子	
河東地域づくり委員会	会長	渡辺 市雄	
会津若松医師会	理事	新井田 有耕	
会津若松市保健委員会	会長	越尾 咲男	
会津若松市立小中学校校長協議会	松長小学校校長	齋藤 学	
会津若松市父母と教師の会連合会	中学校部会長	武田 枝理	
会津若松商工会議所	総務部長	山崎 雄一郎	
会津若松市商店街連合会	会長	羽金 與八	
会津よつば農業協同組合	あいづ西部営農経済センター長	山内 紀夫	
福島県会津保健福祉事務所	副所長兼総務企画部長	眞壁 勝	
市民公募		角田 康雄	
市民公募		岡野 文江	